

□大学教育再生加速プログラム

(Acceleration Program for University Education Rebuilding ; A P)

「大学教育再生加速プログラム」は、平成26年度に文部科学省にて新設された事業で、大学教育改革の方向性に合致した先進的な取り組みを重点的に国が支援することにより、改革を加速させるプログラムです。 本学は、テーマII「学修成果の可視化」に採択されました。



■ 学生の学び・教学マネジメントのループの仕組み

●大学教育再生加速プログラムの展開

採択から4年目となる今年は、昨年度実施した下記のような「学生の学びのループ」、学びを支える「教学マネジメントのループ」のPDCAをより確実に回し、学修成果を目に見える形で定量的に「可視化」し、大学教育の「質保証」を目指していきます。

●学生の学びのループ

工学科在籍の学生は、年に2回、自分の培った能力の振り返り（どういった分野の講義・演習を受け、どういった能力が培われたか）を行い、今後の取り組みを行うかを計画します。こうした振り返りを重ねながら、卒業までに、しっかりとした知識・技術・能力を身につけていきます。

「学生の学びのループ」をしっかりと回す為に、前期・後期のはじめに、学生の振り返りを助言教員が確認します。履修計画のアドバイスや、授業を受ける際の留意点など、適切な助言を行い、学生自らの学びのループを、サポートしていきます。

職業人として活躍するための準備も、一つの学びのループです。将来就職したい企業で活躍するために、大学でどういった学びを深めていくか、その確認の機会として、「**対話型企業技術・要素会**」を実施し、平成28年度は42社の企業に参加頂きました。参加した学生からは、「現在受講している授業の重要性や、就職後にどう活かされるかが理解できた」といった声が聞かれました。このように、学生たちは、その企業で求められる技術・知識・能力を丹念に聞き取り、記録に残すことで、今後の大学での学びに活かしていきます。

●教学マネジメントのループ

「教学マネジメントのループ」については、大学での教育のあり方を教職員全員で検証しています。「対話型企業技術・要素会」や学内合同会社説明会の参加企業を対象に、大学の中で、学生に身につけておいてほしい技術・知識・能力に関するアンケート調査を実施し、教育の改善に向けた知見を収集しています。H28年度のアンケートでは、「工学分野で基本となる数学や物理の習熟の必要性」、「今後のグローバル展開を見据えた英語の読む・書く能力のスキルアップも重要」、といった声も聞かれました。

また、**IR (Institutional Research)** を用いた教育改善についても議論を進めています。IR とは、学生に関する様々な情報を元に、退学を未然に防いだり、より円滑に次のステップ（進級や卒業、就職）に進めるよう支援体制を整えたりするものです。IRに関する第一人者にこれまで多数ご講演いただきました。昨今の教育界の動向を伺いながら、教育のあり方を深く議論する、貴重な機会となっています。

■APシンポジウムの開催

本学でのAP事業の取り組み状況や学生の成長を報告するとともに、参加者と情報共有を図ることを目的に、本シンポジウムを開催しました。シンポジウムは下記に挙げる4つの構成で行われ、当日は、大学関係者や企業の方から、150名の参加をいただきました。

日時 平成29年2月24日（金）14:00～17:00

場所 新潟工科大学 S1大講義室

テーマ “学生の夢を叶えるための学修成果の可視化～企業視点を取入れた大学改革～”

①基調講演

講師：山本 繁 氏（NPO法人NEWVERY 理事長・創設者）

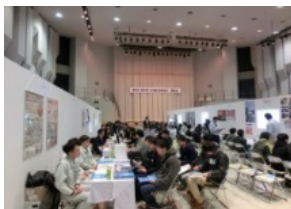
演題：「IR が与える高等教育へのインパクト」

●高校生に向けての情報発信のあり方について

過去の在学生の学びをデータとして振り返り、その成長を捉えることで、本学での学びを志す高校生たちへの、さらなる期待や魅力の発信に繋がる可能性があること、そして、こうした取り組みは、学びの過程で起こりうる問題やその発生のパターンを認識しやすく、問題を未然に防ぐ対策の構築に繋がることなどを、他教育機関の具体例とともにご示唆いただきました。



2つの改善ループ



対話型企業技術・要素会の様子(2017.1.11)



IR に関する講習会の様子（2017.3.10）



NPO法人NEWVERY 山本 繁 氏



APシンポジウムの様子



②「**本学A P事業の取り組み**」
教育改革加速チームのチーム長である飯野秋成教授より、本学AP事業の全体像と、具体的な取り組みや成果についての説明がありました。



③「**企業の声**」
株式会社カシックスの齋木太郎氏より、企業で必要となる資質と能力について、発表が行われました。（齋木太郎氏は本学第1期の卒業生です。）

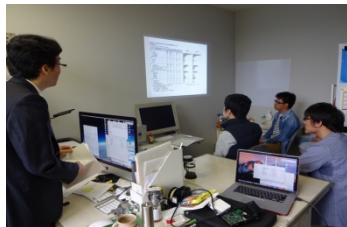


④「**学生の声**」
本学工学科2年の宮嶋萌美さんに登壇いただき、対話型企業技術・要素会での学びや感想について、内山学務課長のインタビューを通じて発表しました。

■企業が求める基礎学力の定着に向けて

本学では、毎年4月に実施している「企業が求める基礎学力到達度テスト」の結果を元に、各助言教員との振り返りの時間を設けています。

工学分野で必須となる数学、物理に加え、グローバル社会に向けた英語の3科目について、企業側へのアンケート調査結果を参考にしながら出題内容を検討し、到達度テストを実施しています。



企業が求める基礎学力を確認

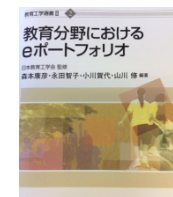
到達度テストの成績を元に、昨年からの程度学力が伸びたのか、維持されたのかを、助言の先生や、周りの学生とも相互に話しながら、確認し合う時間を設けています。

こうした確認の機会があることで、学生にとっては、達成感やこれからの学びのモチベーションに繋がります。卒業までに、しっかりと基礎学力そして学習の習慣を定着させていきます。



基礎学力到達度テストの確認とアドバイス

■News（最新のお知らせ）



●書籍『**教育分野におけるeポートフォリオ**』に**本学の達成度自己評価システム**が紹介されました。（ミネルヴァ書房 2017/2/10 pp.117-119）

森本先生は、本学の「達成度自己評価システム」が、学生たちの日々の学びに寄りそうくみに昇華されたシステムとなっていることを、具体例とともにご紹介いただいております。

～掲載ページ詳細～

第5章 eポートフォリオと教育の質保証

5.3 eポートフォリオを活用した教育の質保証の事例

未来をつくらう。



●**新潟工科大学A P事業の紹介動画を作成しました。（公開日：2017/3/27）**
「**未来を作ろう**」

本学の大学教育再生加速プログラム（AP事業）の取り組みを、学生目線で紹介しています。本学が目指す「学ぶ側」と「教える側」のループによる「学修成果の可視化」を分かりやすく解説しています。

Move navi http://www.niit.ac.jp/ex_sp/movie/ で公開しています。

DVDをご希望の方には、下記事務局までご連絡ください。



QRコード

■そして一言（黒木 宏一准教授/教育改革加速チーム）



6年計画の本学のAP事業も、今年で4年目を迎えました。これまで取り組んできた学生の学びのループや、教学マネジメントの仕組みも確実に定着してきています。学生が主体的に学ぶ機会を設け、それらの成果をしっかりと「可視化」することで、さらなる学びの意欲を促し、学びの定着と教育の質保証の流れが生まれつつあるかと思います。今後の取り組みとしては、学生の情報を整理しながら、学びにつまずいている学生へのサポートや、退学の未然防止といったIRを用いた取り組みも計画されており、多角的なアプローチから、しっかりと「学生の学び」を支える仕組みづくりに取り組んでいきます。

新潟工科大学 教育改革加速チーム/キャリア教育広報ワーキンググループ（事務局：学務課）

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719 TEL：0257-22-8110 FAX：0257-22-8123

e-mail：gakumu@adm.niit.ac.jp

大学教育再生加速プログラムHP： http://www.niit.ac.jp/ap_business/ バックナンバーはこちらのHPからダウンロード可能です。